【ポスター発表】

障害者支援施設職員の専門性の獲得

－試し行動をする利用者への新人職員の対応－

○　小田原短期大学　　太田　雅代（会員番号 010146）

キーワード：障害者支援施設、専門性、新人職員

１．研 究 目 的

障害者支援施設における支援の質の向上は、入所者の生活の質（QOL）に直接的な影響を与える重要な問題である。支援の質は職員の専門性の高さに依存するが、これに関して厚生労働省(2020)は「障害福祉現場の人材確保・業務効率化について」と題した報告書の中で、障害者支援施設職員の専門性とそれを支える研修の重要性を指摘している(1)。しかしながら、障害者支援施設で働く職員の専門性についてはその内容や獲得の機序に関してほとんど研究がなされていないのが実状である。

そこで本研究では、障害者支援施設で働く職員の専門性の獲得についての知見を得るために、新人職員への調査をおこなった。対象を新人職員とした理由は、新人はキャリアの開始期にあたるため、専門性の獲得プロセスを把握しやすいと考えたことによる。

２．研究の視点および方法

調査協力者：障害者支援施設に勤務する職員 1 名。20 代男性。2024 年 3 月に保育系専門学校を卒業後､同年 4 月に当該施設に就職｡就職以前に障害児者と深く関わった経験はない。

調査手続き：インタビューガイドを用いた 1 対 1 の半構造化面接。インタビューの項目は「印象に残っている利用者さんとのエピソードを話してください」とし、調査協力者の体験や考えを自由に話してもらった。面接は調査協力者の同意を得て録音した。

調査時期：2024 年 12 月。

分析方法：録音データから逐語録を作成し、利用者とのエピソードが語られている箇所を抽出して、佐藤郁哉(2)による質的データ分析方法に基づき分析を行った。具体的には、①データのセグメント化、②定性的コーディング、③コードのカテゴリ化、④カテゴリ間のストーリー化、の手順で分析を行った。分析は著者が行い、質的分析の研究者 1 名に結果を共有して協議の上、適宜修正した。

３．倫理的配慮

本研究は小田原短期大学の倫理委員会による審査を受けた。なお本報告に関連し、開示すべき COI 関係にある企業等はない。

４．研 究 結 果

インタビューデータのうち、ある１名の利用者への支援が語られた箇所についての分析結果を報告する。当該利用者は男性、40代、中度知的障害、発語なし、身辺自立はできている。インタビューによって得られたテキストデータを分析した結果、27のコードを抽出した。その後、それらのコードを 14 のカテゴリーにまとめ、カテゴリー間の関係から 5 つのカテゴリーグループにまとめた。以下、カテゴリーグループを【　】、カテゴリーを<>、サブカテゴリーを<<　>>を用いて、それぞれの内容について説明していく。

【利用者の状況】としては、<言語能力>は<<話す>>ことはできないものの、<<聞いて理解する>>ことはできている。<情動表出>は豊かであり、表情はわかりやすい。<性格>は頑固な一面がある。調査協力者（以下、新人）が 2024 年 4 月に当該利用者が居住しているユニットに配属された直後から、【試し行動】が始まった。その<内容>は<<指示を無視する>><<薬を飲まない>>というものであり、<対象>は<<新人>>だった。<試し行動の対象>や<試し行動の期間>についての【先輩職員からの助言】を受けながら、<親身な支援>を試す、<事務的な支援>を試すという【試行錯誤しながらの支援】を続けたが、その途上では新人の<心の状態>は悪化し、退職を考えることもあった。約半年後、<利用者を受け入れて肯定>し、<信頼関係>を築くという支援に行き着くと、試し行動は終了し、その後は<静かな声かけ>でも利用者に指示を通せるようになり、<先輩と同じ道>を辿っているという確信が得られ、【専門性の獲得】に至った。

５．考 察

本研究では、新人職員が障害者支援施設職員の専門性のひとつを獲得するプロセスを明らかにした。さらに本研究では、この専門性を獲得するまでに約半年間を要すること、その期間新人職員は退職を考えるほどの精神的苦痛を経験すること、先輩職員からの助言が大きな役割を果たすことも見出した。ほとんど先行研究のない障害者支援施設で働く職員の専門性獲得について、新しく有益な知見を得ることが出来たといえよう。

今後の課題としては、調査対象者数を増やして本研究で得られた知見の信頼性を検証すること、それによってより精緻な理論構築をおこなうこと、他の専門性の獲得についても調査をおこなうことが挙げられる。

文献

(1) 厚生労働省（2020）障害福祉現場の人材確保・業務効率化について https://www.mhlw.go.jp/content/12401000/000698941.pdf

(2)佐藤郁哉(2008)　質的データ分析法　−原理・方法・実践−　新曜社